

日本GNH学会 NEWS 第1号

発行：日本GNH学会

2011年8月22日

第1回 大会・総会・懇親会 開催！

日本GNH学会の今年度（第1回）大会を下記の通り開催します。
会員の皆様には、ご多忙とは存じますが、是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

また、本大会は会員だけでなく、国民総幸福度（GNH）、ブータン王国、さらに地域におけるGNHの活用など、さまざまな関心がある一般皆様のご参加も歓迎します。

どうぞ皆様にはお誘い合わせの上、ご参加をお願いします。

大会当日に入会申込の受付を行います、入会勧誘にご協力ください。

日 時：2011年9月25日（日曜日）午後2時より

大会会場：アルカディア市ヶ谷（JR・地下鉄市ヶ谷駅下車、徒歩3分）

（定員55名、先着順にて定員になり次第、受付終了）

懇親会 午後6時 開会

会場 ボンベイクラブ（インド料理・汐留）

JR新橋駅下車徒歩3分

<ご参加申込受付中（メール・FAX）>

9月25日 大会・総会・懇親会 申込要項

ご参加ご希望の方は、メール・ファックスにてお申し込み下さい
申込締切：9月20日（先着順定員になり次第、受付終了）

下記の申込内容をメールにてご送信ください

Info@js-gnh.org

- 1)お名前
- 2)ご所属
- 3)ご連絡先
- 4)会員・非会員の区分
- 5)ご参加の会合の区分
 - ・ 大会・懇親会に参加
 - ・ 大会のみ参加
 - ・ 懇親会のみ参加

ファクス申込用紙は最終ページを印刷して下さい

本学会の大会・懇親会は、非会員の方もご参加できます。
学会発展のため、是非この機会にご入会をお願いします。

入会申込→学会サイトでの「web入会申込」

<http://js-gnh.org/nyukai.html>

当日入会申込→大会・懇親会の会場受付にて申込可能

年度会費：5,000円

9月25日 大会プログラム

<大会>

午後1時30分受付開始（資料会場代：1000円を申し受けます）

午後2時 開会

<基調講演> 「過去からの声・未来からの声」

緒方 修（本学会 会長、沖縄大学地域研究所 所長）

山に囲まれたブータン、人口約70万人、海に囲まれた沖縄、人口約140万人。地理的な条件は違うが、考え方は似通った点がある。死者に対する扱い、未来の世代に対する配慮。沖縄での一例を示すことにより、普遍的な課題を考えたい。

<発表-1>

「ブータンのGNHを文化大使として日本へ伝える」

マリ・クリスティーヌ（本学会 常任理事、ブータン王国名誉文化大使）

<発表-2>

「日本の地域とGNH」

関山祐介（本学会 常任理事、一般社団法人公共経営研究機構 理事）

21世紀に日本が学ぶべきものの1つにブータンが提唱する「国民幸福度」がある。都市化をせずとも、物欲を満たすことなしでも、みなが幸福を感じる社会。国際的なボーダーレスな時代に、国家間という堅苦しいものでなく日本の自治体とブータンの自治体が人事交流することで互いに補完しあえるような仕組み作りがあっても良い。

9月25日 大会プログラム

<大会>

<発表-3>

「ブータン社会の現状～7月訪問から～」

福永正明（本学会 常任理事、岐阜女子大学南アジア研究センター）

本年7月、国際学会参加のためブータンを訪問、1週間滞在した。その間、政府・研究機関高官を含め市民・学生たちと対話する機会を得た。滞在中の出来事、対話から得た知見、そして今のブータン社会をどのように理解していくのかについて考えたい。

<パネルディスカッション>

4名の講演者・発表者による討議を行います。
ご参加の皆様から、ご質問も受け付けます。

午後4時：大会終了予定

→大会終了後、同会場にて「学会総会」を開催します。

→懇親会は、新橋・汐留にて行います

学会テーマ
ブータンのGNH(国民総幸福度) を考える

9月25日 総会 ご案内

総会

午後4時 開会

1. 学会会長 挨拶
2. 会議成立の手続き
3. 総会

第1号議案 2011年度会務報告に関する件
6月12日開催の設立総会以後の本学会の会務について、報告します。

第2号議案 2011年度事業計画および予算に関する件
本年度の事業計画と予算について、審議します。

第3号議案 学会役員を選任に関する件
6月12日開催の設立総会以後の本学会役員選任について、審議します。

第4号議案 その他、本会の運営に関する重要事項

午後4時30分 終了予定

<終了後、会場のアルカディア市ヶ谷は閉室します>

～～～懇親会会場への移動をお願いします～～

9月25日 大会・総会 会場案内


<会場> アルカディア市ヶ谷 案内


■所在地

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

TEL:03-3261-9921 FAX:03-3261-9931

■交通のご案内

 地下鉄 有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 (1 または A1) 出口

 地下鉄 新宿線 市ヶ谷駅 (A1 または A4) 出口

 JR 中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅



9月25日 大会・総会

<会場> アルカディア市ヶ谷

<http://www.arcadia-jp.org/access.htm>

～～大会・総会終了後、閉室します～～

～懇親会会場（JR新橋駅徒歩3分）への移動～

JR総武線 市ヶ谷駅→飯田橋・千葉方向へ
4つ目「秋葉原」下車・乗り換え
JR山手線・京浜東北線→神田・東京方向へ
4つ目「新橋」下車
「汐留口」より徒歩3分

汐留シティーセンター内 2階「ボンベイクラブ」

⇨地図は次ページ

9月25日 学会懇親会

来日中のブータン王国ジグミ・ティンレイ首相閣下には、
学会懇親会にご臨席の予定です

開会時間：午後6時（時間厳守）

会 場：インド料理Bombay Club（ボンベイクラブ）

住所：汐留シティーセンター2F（新橋駅汐留口下車）

〒105-7102 東京都港区東新橋1-5-2

電話：03-5537-2215

J R新橋駅 徒歩3分 ・ 地下鉄銀座線新橋駅 ・ 都営大江戸線汐留駅 徒歩1分

[地図→ぐるなび](#)



＜新連載：リレーエッセイ＞ 私とGNH No.1

「学会NEWS」では、会員皆様のエッセイ「私とGNH」をリレー形式により掲載します（ご投稿大歓迎！）

日本にもある幸福度思想

高木桂蔵（本学会常任理事・静岡県立大学名誉教授）

わが国にも古来『幸福度』という考えがあることを紹介したい。古事記のそれだ。イザナギノミコトが黄泉の国に行き、妻と会ってこの世にかえってきたとき、『私は随分嫌な汚れた国に行ったことだ。ミソギをしようとおもう』とおっしゃられて、筑紫の日向の橘の小門のアワギハラでミソギをなさった・こう書かれているのは周知のとうりで、このミソギの途中で『モロモロのマガドト。マガツヒが捨てられ、そのあとカムナオヒ・オオナホヒ・アマテラス・ツクヨミ・スサノオが生まれた』と記されている。

『欲や嫉妬をケガレとする』

これは『汚れの境地』からの脱却を表している。古代の日本人は、肉体(アラタマと呼ぶ・荒魂)、その下に心(ニギミタマ・和魂)、その奥に直霊(ナオヒ)があると考えた。この荒魂(肉体)や和魂(心)が汚れることをマガゴト(禍事)マガツヒ(禍霊)がついたとして、それを取り除くことを『ミソギ』で象徴しているのである。

今日も神社で『おはらい』を受けるのがそれである。そうすると人は幸福になるとしたのだ。

肉体や心が汚れるのは欲や嫉妬・怒りなどがおきたからだとするのである。大事なのは、その奥に直霊(ナオヒ)があるとする考えである。肉体・心のさらに深いところにある直霊は人間の人間たる本質を示しており、これは神にも繋がるとする。

『日本とヒマラヤ山麓の共通性』

キリスト教では人は『肉体と靈魂(心)』のみとする。その奥の『直霊・なおひ』はない。僅かにフロイドが『イド』といい、これに迫っている。

この『直霊』は大自然や神ともいえるもので、その外側の体・心の汚れを取除くことを大切とする。国学者の賀茂真淵は『直霊(なおひ)のみたま』という著書でこれをわかりやすく説明している。自然や祖先から継承した『素直な精神』への立ち返りを主張しているのであるが、考えてみれば自然の豊かなヒマラヤ山麓の自然の声

に耳を傾ける精神を日本人は容易に理解できるのである。

欲望や怒り・妬み等のない境地を『オオナオヒ・カンナオヒ』と言っているのであり、深い処で古事記のそれとブータンのそれは共通しているということを紹介しておきたい。なお歴代天皇が大嘗祭をなさるのは、これを確認・再現するためである。

(了)

＜新連載：リレーエッセイ＞ 私とGNH No.2

「学会NEWS」では、会員皆様のエッセイ「私とGNH」をリレー形式により掲載します（ご投稿大歓迎！）

いまこそ、心の幸せを求めて

森 詠（本学会理事・作家）

東日本大震災と、それに伴う東電福島第一原発事故が発生してから、すでに半年が過ぎようとしている。

巨大地震に大津波は自然災害なので、まだなんとか諦めはつくが、どうしても腹が収まらないのは、東電福島第一原発事故である。

私はかねてから、原子力の平和利用などありえない、原発は危険な存在だ、人間と原発は共存できない、と主張していた一人だが、とうとう怖れていたことが現実になってしまった。

今回の事故は、東電になによりも責任があるが、原発利権に群がって、これまで甘い汁を吸ってきた官僚、政治家、財界人、そして、金に目がくらんだ地元自治体の組長にも大いなる責任がある。

原子力発電は、日本の高度経済成長を支えてきた柱であった。だが、どうして、日本は世界唯一の核被爆国だということに、核の平和利用が出来るなどといったまやかしに乗せられて、こんな狭い国土に五十四基もの原発を設置してしまったのだろうか？

日本は、そんなに急いで高度な経済成長に力を注がずとも、ゆっくりとしたテンポで経済成長して来てもよかったのではないのか？

エネルギー開発も、原子力発電という危険なエネルギーに頼らずに、太陽光発電や風力発電、海流発電やら地熱発電など、安全で自然との共存が出来る自然エネルギーの開発を進めて来ればよかったはずだ。

太平洋戦争の敗戦後、日本人は貧乏のどん底にいたが、それから十年もしないうちに、驚異的な復興を遂げた。昭和三十年代に入ってから、日本はなりふりかまわず、しゃにむに高度経済成長路線を突き進んでしまった。

あの昭和二十年代の何もなかった時に、私は子供時代を送ったが、決して不幸ではなかった。狭い部屋に家族が身を寄せ合って雑魚寝をするような貧しい生活だったが、家族はみな幸せだった。

いまはたしかに生活は便利で豊かになったが、家族はばらばらに解体され、みな孤独な個人となって生きている。ケータイとかネットとかいう電子的な繋がりも広がっても、人と人の顔が見え、肌の温もりがあるつきあいは希薄な時代になってしまった。都会でも田舎でも家族から見離された老人が孤独死する事態が起こっている。これが人間として幸せといえるのか？

→つづく

＜新連載：リレーエッセイ＞ 私とGNH No. 2

「学会NEWS」では、会員皆様のエッセイ「私とGNH」をリレー形式により掲載します（ご投稿大歓迎！）

いまこそ、心の幸せを求めて

森 詠（本学会理事・作家）

日本人があまりに物質的な裕福さばかりを追い求めた結果の一つが、福島原発事故、放射能汚染の拡大とあっていい。

国民総生産（GNP）至上主義ではなく、みんなで楽しく国民総ハピネスGNHを。

いまこそ物質的な幸せばかりを追い求める思考をあらため、心の豊かさ、心の幸せを大事にする世界を創るよう、日本人の発想を切り変える時が来たと、私は思っている。

（了）

日本GNH学会『学会NEWS 第1号』

発行：日本GNH学会事務局

2011年8月22日

編集担当：日下部尚徳（常任理事）

学会に関しましては、以下の事務局までお知らせ下さい。

〒113-0033東京都文京区本郷3丁目3番地13

ウィークお茶の水ビル2階

株式会社芙蓉書房出版内

電話：03-3813-4466 FAX：03-3813-4615

学会費の振込口座：三菱東京UFJ銀行 本郷支店(351)

普通預金 0080204

日本GNH学会

メール：Info@js-gnh.org

学会へのご連絡、GNHに関するご質問、メディア取材依頼、講演など企画依頼は、メールにてお願いします。

本『学会NEWS』に掲載する論考・エッセイ・投稿などは、執筆者のご見解・ご意見であり、本学会の見解を反映するものではありません。念のため申し添えます。

FAX 03-3813-3165
日本GNH学会事務局 行

2011年9月25日の大会・懇親会に申し込みます

■お名前: _____

■ご所属: _____

■ご連絡先：電話番号 _____

メールアドレス _____@_____

<以下は、該当する項目にレ印をお願いします>

■会員区分： [] 会員・[] 非会員

■参加の会合区分

[] 大会・総会（資料会場代 1,000円）

[] 懇親会（参加費 5,000円）